

ガイドダンスカウンセラーの挑戦 7

園小中一貫教育における ガイドダンスカウンセリングの実践

神奈川県箱根町教育相談センター所長

石井ちかり

箱根町では、ほとんどの子供が三歳で町立の幼稚園、保育園、認定こども園のいずれかに入園し、卒園後は三つの町立小学校に入学する。その後、一つの町立中学校に入学する。このような地域の特性をふまえて当町では、平成二七年度より「分離型園小中一貫教育」に取り組んでいる。筆者が勤務している町の教育相談センターでは、園小中一貫教育における教育相談活動のコーディネートをしたリ、各園や各校の心理的支援や支援教育のサポート（コラボレーション、アセスメント、コンサルテーション）をしたりしている。

1 箱根ハートフルプログラム（HHP）

園小中一貫教育の徳育の柱として、十二年間の連続した学びの中で、子供たちの自立と共生、人間関係形成の力を育成することを目指した教育プログラムである「箱根ハートフ

ルプログラム（以下、HHP）」を実践している。HHPは、構成的グループエンカウンター（SGE）やソーシャルスキルトレーニング（SST）などのグループアプローチを取り入れた授業を通して、自己理解を深め、人間関係づくりの方法を学び、そこで学んだことを教育活動の様々な場面で強化し、定着化を図るものであり、園小中一貫のガイドダンスカウンセリングと言える。ガイドダンスカウンセラーである筆者は、HHPの構成や内容を提案し、園や学校のHHP推進委員会や研究会にアドバイザーとして加わり、改良を加えながらプログラムを作成した。また、町全体での研修会や各校の校内研究会などの講師を務めたり、自身がリーダーとなって授業を行ったりして、プログラムの推進に努めてきた。以下、いくつか具体例を紹介する。

(1) 実践例1 「自己アピール書を書く」

HHPの小学校最後の内容は、「自己アピール書」の作成である。「自己アピール書」とは、自分の長所、将来の夢、目標にしたい人、自慢できること、小学校で頑張ったこと、好きなもの、大切なもの、中学校で頑張りたいこと、こんな中学生になりたいなどを一枚のシートにまとめたものである。完成した「自己アピール書」は入学前に中学校に送付し、先生方に見てもらっている。この活動の目的は、小学校六年間を振り返り、自分の成長を確認して、中学校生活に希望と意欲を持たせることである。

「自己アピール書」作成の第一段階は、「自分発見！」（湘南グループアプローチ研究会）というお互いの良いところを教え合うエクササイズである。このエクササイズの振り返りでは、「自分が思っている自分と友達から見ただ自分は違っていて驚いた」「みんなが一生懸命に自分の良いところを探してくれてうれしかった」「自信がついた」などの感想があった。この活動をすることで、誰もが自分の長所を「自己アピール書」に書き入れることができるようになる。つまり、自分の長所や個性に気づき、自己肯定感、自己有用感を高めることが期待できる。また、中学校教員が「自己アピール書」を見ることで、入学直後から子供への肯定的な声かけがしやすくなっている。当初は筆者がリーダーとなることが多い。

だが、継続して実施した結果、最近では担任が進んでリーダーを行うことが多くなった。先生方のグループアプローチに対する抵抗感が少なくなり、HHPが定着したことを実感している。

(2) 実践例2 「中学校一日体験入学HHP」

毎年三月に、町内の小学校六年生を対象に「一日中学校体験入学」を実施している。その一コマで中学一年生と一緒にSGEを行っている。六年生には入学に対する安心感を、中学生には先輩としての心構えを持たせることを目的としている。リーダーは筆者が務めている。まずショートエクササイズを行って緊張をほぐした後、小学生と中学生が協力し合うエクササイズに取り組み、振り返りを行う。今まで行ったエクササイズは「サッカーじゃんけん」「間違い探し」「すき焼きじゃんけん」などである。

小学生の感想には、「中学生がとても優しくて安心した」「中学校への入学が楽しみになった」「いろいろな学校の人と協力できてよかった」などがあった。中学生の感想には「年下が苦手で、どう接すればいいかビクビクしていたが、簡単なことを話しかければよいとわかった」「六年生に優しくできるか心配だったけど、楽しそうな顔をしてくれてよかった」「新一年生と仲良くできるといいと思った」「手本になる先輩になりたい」など

があった。これらから、活動の目的は達成でき、中一ギャップ緩和につながったと思われる。また、リーダーシップやフオロワーシップについて学べたこともうかがえた。

2 学校生活アンケート(アセスメント)

HHP等の園小中一貫教育の効果測定として、筆者が作成した「学校生活アンケート」を全小中学校で年三回、実施している。アンケートは低学年版と中高学年・中学生版があり、どちらも以下の内容から構成されている。

・児童生徒の自己肯定感や自己有用感、学級集団と個人の関係、社会的スキルの状態などを把握する質問

・いじめにつながる行為の有無について把握する質問

・自由記述

自由記述は「必ず三行以上書くこと」として、周囲に書いていることを悟られることを気にして、伝えたいことを書けないことがあるようにしている。これによって、日常では気づけなかった子供の心の様子を知ることができる。アンケートの結果は、教育相談センターで点検・集計・分析を行っている。そして、町全体、各校、各学級の子供の状態とその変容を、町全体で情報共有している。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家の見立てにも結果を活

用している。

六年間の「学校生活アンケート」の結果の推移から、町の児童生徒の自己肯定感や自己有用感の向上と、いじめにつながる行為の減少の傾向が確認されている。これは、HHP等の園小中一貫教育の取組の成果と考えられる。アンケートの結果から見られる町の子供たちの様子やHHPの取組の様子、教師が生かせるカウンセリング技法などの情報などは、毎月、筆者が発行している「教育相談センターだより」に掲載し、園小中学校の全教職員に紹介している。

3 ガイダンスカウンセラーのネットワーク

数年前にSGEのワークショップで知り合った他県O町のガイダンスカウンセラーであるS先生はHHPに興味を持たれ、当町に小・中学校の視察教員を派遣したり、O町全教職員の研修会に筆者を講師として招いてくれたりした。その後、O町は本プログラムを導入し、S先生から「ハートフルプログラムを含めて学力向上や不登校減少が認められ、今年度、県より団体優秀教職員表彰をいただきました。ご指導のおかげです」というお礼のメールが届いている。

ガイダンスカウンセラーが挑戦しているそれぞれの活動を紹介し合えるネットワークをもっと広げていきたい。